

自分自身の 健康管理 医療人の第一歩

解説

- 安全な医療を提供するためには、自らの健康や生活を管理することが必要であり、このことは医療人としての基本です。
- 自己管理を行うためには、自分の体調を常に把握しておくことが必要です。

具体的な 取組に向けて

メンバーへの配慮

- ▶リーダーはメンバーの体調や健康状態にも配慮しましょう。

健康管理と生活管理

- ▶次の業務に備えて、健康管理や生活管理を心がけましょう。



事故予防 技術と工夫も 取り入れて

解説

- 安全確保のための取組を人間の力だけで行うには限界があります。このため、積極的に技術を活用することで、人的ミスの発生を減らすことができます。
- 特に、近年発達を遂げている情報技術の活用は医療安全を推進するための手段の一つです。
- 一つのミスが全体の安全を損なわないよう十分配慮され、操作性にも優れた機器や器具などを使うことが大切です（フェイルセーフ技術の活用やユーザビリティへの配慮）。
- 機器や器具などに関する医療現場の意見や創意工夫も安全確保のために重要です。

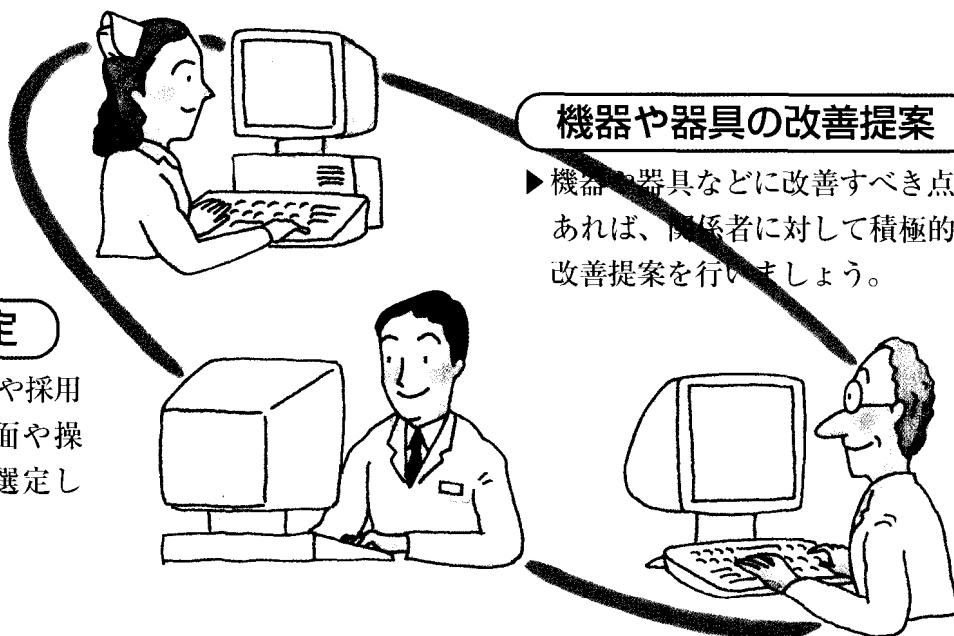
具体的な 取組に向けて

機器や器具の選定

- ▶機器や器具などの購入や採用にあたっては、安全面や操作性に優れたものを選定しましょう。

機器や器具の改善提案

- ▶機器や器具などに改善すべき点があれば、関係者に対して積極的な改善提案を行きましょう。



患者と薬を再確認 用法・用量 気をつけて

解説

- 医薬品に関するミスは、医療事故の中で最も多いといわれています。
- 誤薬を防ぐために、医薬品に関する「5つのR」に注意することが必要です。
5つのR (Right=正しい) とは、「正しい患者」、「正しい薬剤名」、「正しい量」、「正しい投与経路」、「正しい時間」を指します。

具体的な 取組に向けて

処方せん・伝票

- ▶処方せんや伝票などは読みやすい字で書き、疑問や不明な点があれば必ず確認しましょう。

患者の誤認防止

- ▶患者誤認防止のため、与薬時の患者確認は特に注意して行いましょう。

誤薬防止

- ▶類似した名称や形態の薬には特に注意しましょう。



整えよう療養環境 つくりあげよう 作業環境

解説

- 療養環境の整備は、患者の快適性の観点からだけでなく、転倒・転落等の事故予防の観点からも重要です。
- 作業環境の整備も、手順のミスを防ぐなど、事故防止につながります。
- なお、作業する場所だけでなく、記録や医療機器等も作業環境の一環として整備する必要があります。
- 医療機器等はその特性をよく理解し、安全に使用することが必要です。

具体的な 取組に向けて

整理・整頓・清潔・清掃

- ▶施設内の整理・整頓・清潔・清掃に取り組みましょう。

正確な記録

- ▶他の人にも分かりやすい正確な記録を心がけましょう。



機器の保守・点検

- ▶医療機器等は操作方法をよく理解し、始業・終業点検や保守点検を行った上で使用しましょう。

安全な医療を 提供するための

10の要点

の活用方法

- 「安全な医療を提供するための10の要点」は、すべての医療機関に共通する基本的な考え方として作成したものです。
- この標語の活用により、それぞれの医療機関で職員の医療安全に関する理解が深まることが期待されます。
- この標語の作成にあたって、独自に標語を作成していた医療機関に標語作成のきっかけ、作成方法、普及方法、標語作成による効果等に関するアンケート調査を行いました。
- 以下には、このアンケート結果から示唆された、①標語作成への取組の意義、②標語の作成方法、③職員に対する周知の工夫、についてとりまとめました。
- これらを参考に各医療機関で医療安全に対する取り組みがすすめられることが期待されます。

標語作成への取組の意義

- 標語により、職員の医療安全に関する意識の向上や、ミスを犯しやすい場面での注意喚起につながります。
- 各々の医療機関がそれぞれの施設内のどこに危険が潜んでいるかを全職員が認識し、具体的な対策を策定することが重要です。
- このため、各々の医療機関が独自の標語づくりに取り組むことが求められます。これにより、職員の安全への意識や相互のコミュニケーションが深まり、医療安全がより一層進展することが期待されます。
- なお、作成された標語は、新人研修の教材として用いるなど、すべての職員にその具体的な意味まで理解してもらうよう配慮することが重要です。